

公共施設マネジメント通信

vol.7

平成 30 年度

平成 30 年 7 月 3 日発行

第 6 回まちづくりワークショップを開催しました！

小田原市 企画部

公共施設マネジメント課

自分たちの生活圏にある公共施設のあり方を話し合う「まちづくりワークショップ」。市では平成 29 年度から、市街化調整区域から人口集中エリアまで多様な地域特性を持ち、様々な種類の公共施設がある、千代地区と鴨宮地区で始めています。

鴨宮地区

進行：工学院大学 建築学部
遠藤 新 研究室

意見交換の概要

日時：5 月 23 日(水)18:30 ~ 20:30

参加者：16 名

場所：川東タウンセンターマロニエ 202 会議室

傍聴者：2 名



第 6 回テーマ

矢作エリア・豊川エリアのパイロット・プロジェクトについて話し合う。

意見交換の論点

「パイロット・プロジェクト」とは？

…「短期的に取り組むべきプロジェクト」として位置付けている。

<豊川エリア>

どのようなパイロット・プロジェクトがあり得るのか話し合う。

<矢作エリア>

それぞれの公共施設が更新時期に近づいているため、再編する必要がある。

■これまでの議論を受けて作成した再編方針やパイロット・プロジェクトに対する意見交換

■「矢作エリア」に対する参加者の意見

| | | | |
|-------------|----------------------------------|-----------|------------------------------------|
| 鴨宮中への集約について | ○鴨宮中に集約するのは良い | 再編後の懸念 | ○配置が変わることで砂埃や騒音が懸念される |
| | ○動線や入口は、子どもと大人で分けた方が安心 | | ○跡地はグラウンド利用のみではもったいない |
| 多世代交流 | ○学習環境は維持されるのか | 新たな機能 | ○一つの機能だけの部屋よりも、多くの使い方ができる部屋が利用しやすい |
| | ○集約する際に、機能の取舍選択を考える必要がある | | ○跡地は駐車場として利用できるのではないかと |
| 地域利用のしやすさ | ○学校同士が近づくことで、つながりが生まれるのは良いと思う | 下府中市民集会施設 | ○ホールを残し利用したい |
| | ○駐車場は必要になってくる | | ○正門前の道は交通量が多く通学路として良くない |
| | ○距離が遠くても行こうと思えるような工夫が必要(カフェ、温泉等) | 現状 | |



■「豊川エリア」に対する参加者の意見

| | 現状に対する意見 | 将来に対する意見 |
|--------|--|--|
| 豊川全体 | ○公民館は借地のため、建替えができない ○若い人や子育て世代が増えている | ○地域や文化の拠点にすることができると思う ○用途を幅広く使える機能が必要なのではないか |
| 豊川支所分館 | ○分館の場所は幹線道路に囲まれていて利便性が高いと思う ○公園や JA の駐車場があり、広いスペースに恵まれている | ○安全面で建替える必要がある ○会議室やホール、公民館を含むコミュニティ施設があると良い ○駐車場を整備する |
| 豊川小 | ○豊川小は広域避難所だが、人口増加のためキャパオーバー | ○豊川の場所で集まることのできる場が必要なのでは |



意見交換の概要

日時：5月21日(月)18:30～20:30
場所：梅の里センター 会議室 A・B

参加者：17名
傍聴者：4名



第6回テーマ

平成29年度のワークショップの振り返り

意見交換の内容

これまでのワークショップでの検討を踏まえた方針(案)に対して意見交換を行う。

検討すべき課題

- 集会施設の利用頻度の把握
- 車が使えなくなったときのこと、駐車スペース
- 現状、使われていない、又はうまく使えていない建物・空間
- 身近に多世代と交流できる場所
- 多様化する地域活動のニーズ対応

■ワークショップでの検討を踏まえた方針(案)

1. 公共施設を効率的に利用する

- 施設の量は減るが、効率的に利用してサービスの質を落とさない
- 地区公民館の利用を含めて総合的に施設利用を考える

2. 公共施設を複合利用する

- 公共施設を複数の目的で複合的に利用することでサービスの質を落とさない

3. 小中学校の有効活用

- 少子化が予想される中で、学校の空きスペースを積極的に活用

4. 生活圏に配慮した再編

- 交通アクセスや都市構造を踏まえた三つの生活圏(①スポーツ・子育ての拠点、②歴史・文化の拠点、③生涯学習の拠点)に配慮し、それぞれの生活圏に地域活動の拠点を配置する

5. 特色ある拠点

- 公共施設に対するニーズが多様化しつつあるなか、それぞれの拠点に特色を持たせる

6. 地域活動の情報共有

- さまざまな活動の情報を共有することで、効率的に施設を利用し、地域の世代間交流を進める

■参加者の意見・アイデア

1. 公共施設を効率的に利用する

- 施設周辺の空いている土地(田畑)を有効活用できないか
- 現在の施設の予約方法が煩雑であるため、見直しが必要ではないか

2. 公共施設を複合利用する

- 複合利用が具体的に想像できない

3. 小中学校の有効活用

- 小中学校を生涯学習拠点にできるのか
- 夕方以降は市民開放するなど、小中学校の時間の棲み分けを行う
- 空きスペースを保育園に利用できないか

4. 生活圏に配慮した再編

- 「生活圏」に配慮することは良い

5. 特色ある拠点

- 施設の利用範囲を狭めるのではないか
- 「施設に対するニーズの多様性」と「特色ある拠点」は両立できるのか

6. 地域活動の情報共有

- 情報の発信者が不明
- 様々な公共施設が発信源になれば良い



【問い合わせ先】

小田原市企画部公共施設マネジメント課

TEL：0465-33-1305 FAX：0465-33-1286

Email：shisetsu@city.odawara.kanagawa.jp

〒250-8555 小田原市荻窪300番地